

# 報告

平成23年度医政講演会

## TPPと医療

参議院 尾辻 秀久 副議長

常任理事・医療政策部長 直江 寿一郎

12月3日（土）午後3時30分から、当会館において、長瀬会長が座長を務め、尾辻秀久参議院副議長を招聘して本年度の医政講演会を開催した。

長瀬会長は挨拶で、尾辻講師は、参議院副議長で党籍離脱をされており、自民党でも民主党でもない公平な目での講演を期待していると述べた。以下、講演要旨をご紹介します。

### —講演要旨—

#### はじめに

昨日、石原東京都知事が、「日本は戦後ずっとアメリカの妾であった」と発言したと新聞に掲載されていたが、妾という表現はさて置き、私も、このところのアメリカは言いたい放題・やりたい放題だと思っている。

#### 前回の講演

平成21年6月にお招きいただいた時の講演では、最初に、日本の医療が世界で一番であることを改めて誇って良いと述べた。2000年版「WHO世界保健報告」では、世界191カ国の医療制度を医療の質や平等性という観点から総合的に評価した結果、日本は世界第1位である。これを支えているのは国民皆保険であるが、この世界一が危うくなっているの、みんなで頑張りましょうと話した。

日本の財政は大変厳しく、国の借金がどんどん増え、今や1分あたり1,888万円の利息を払っている。借金が多いということは、当然、収支のバランスが崩れている。社会保障費は、国の一般会計の53%を占めている。高齢者が増えるとともに年金の額も増え、年金と医療費はほぼ同じ、それぞれ最大と言える。日本の人口構造は、もう逆ピラミッド型になっており、若者の5倍の医療費がかかる高齢者が増加し、医療費や社会保障費が増加することは避けられない。

今、ギリシャはじめヨーロッパの財政危機は大変な事態になっており、日本は国債発行高でいうともっとひどい状況だが、国民が国債を買っているの

で、国債不安が表に出てこない。

日本の国の借金は約1,000兆円、日本人個人が持っている預貯金量は約1,500兆円で差し引きすると500兆円の預金となる。個人の預貯金額を500兆円に、国の借金を0円にすれば何の問題もない国であったはずが、政治の責任で現在の形にしてしまった。



尾辻講師

国債を借金と言うが、国債イコール借金というのは間違いで、国債はどのような考え方のもとに発行されているかを改めて理解してもらいたい。例えば、今年、50年使える体育館を50億円かけて造ったとする。今年の税金を払った人達だけのお金で造ると、来年からの49年間は、全く負担をせずに体育館を使う人も出てくるので、50年に分け税金で負担する仕組みにするため国債を発行している。これが普通の国債で、国の財政赤字を補填するために発行される赤字国債とは異なるもので、普通の国債を目の敵にし、借金のもととは社会保障費であるというのは誤りである。

それから、日本の医療費が高いように言う人もいるが、日本の医療費は極めて安く、GDPに対する総医療費の割合は、OECD加盟30カ国中17番目、先進国の中で一番医療費を掛けていない。低医療費で世界一の医療を維持している。診療報酬を組み立てたときに、日本人は元手が掛かっていないものに料金を支払うことに抵抗があるという考えから、医師の技術料を低く抑え、薬代でカバーすることにした。そしてしばらくして「医師が薬で儲かるのはおかしい」と医薬分業とした。医薬分業にするのであれば、技術料を上げるべきだということは誰も言わなかった。こういう議論が多すぎるので、みんなで本当の議論をやり直す必要があると思う。また、医師は高収入と思われているが、週刊東洋経済に掲載されていた職業別の収入ランクでは、1位が弁護士、2位がパイロット、医師は11位であった。収入順に並べたら11番目の職業であるにもかかわらず、献身的に奉仕していることを国民は知るべきである。

前回、最後に、経済財政諮問会議の審議過程の疑問について話した。その頃、経済財政諮問会議の審議ではいろいろ発言があったが、例えば「使い過ぎだから、医療費を減らせ」と言って、日本をアメリカのようにすればいいというとんでもない主張もあった。新自由主義、市場原理主義、弱肉強食の世界で強いものが勝てばよい。医療の世界にもその考え方を入れようとしており、前回「経済財政諮問会議をつぶさないといけない」「経済財政諮問会議は百

害あって一利なし」と述べた。

## TPPと医療

まず、年次改革要望書の存在について説明する。1993（平成5）年に、宮沢・クリントン会談で決め、正式名称は「日本とアメリカ合衆国との間の規制緩和に関する対話に基づく双方の要望書」で、アメリカの要望である郵政民営化や道路公団解体が実現されたが、日本のBSE（牛海綿状脳症）に関しての全頭検査実施の要望は、いまだに実現していない。

そして、2000年、小泉内閣時代に「日米規制改革及び競争政策イニシアティブに基づく要望書」という形になり、日米首脳会談において「成長のための日米経済パートナーシップ」と「日米投資イニシアティブ」が発表された。その後、2009年の日本の政権交代でいったん廃止になったが、2011年、菅政権のもとで、「日米経済調和対話」と名前を変えて実質的に復活し、そして、今回のTPPにつながっていく。TPPは急に降って湧いたのではないことを理解してもらいたい。

要望書は、英語ではサブミッション「提案」という意味だが、服従、降伏、いいなり、従順という意味が非常に強い言葉で、双方の要望書だが、アメリカの「こうしなさい」という指示書で、日本はこれに忠実に行ってきた経緯がある。

私が厚生労働大臣に就任した時の小泉総理大臣からの指示書の中に「混合診療全面解禁を行え」と書いてあった。私は、それまで、混合診療はどちらかといえば解禁しても良いと考えていたが、改めて混合診療を見直し、経済財政諮問会議の思惑どおりに進めたら大変なことになると分かったため、急いで整理し、差額ベッドや歯科の合金等は混合診療として認める一方で、先進医療は今後の検討課題としてこの問題に決着を付けた。

彼らは、先進医療を含め混合診療を全面解禁し保険登載せず、アメリカの多くの保険会社を日本に進出させ、「政府の国民皆保険は少しの医療しか受けられないので頼りになりません。いざという時のためには高い保険に入らなければなりません」とする気だと思ったので、このように対応した。アメリカが、混合診療の解禁を蟻の一穴にして、日本の国民皆保険を崩してしまおうと狙っているのは、終始一貫変わらないやり口だと思う。

改めて要望書を読み直し、「菊と刀」という本のことを思い出した。アメリカが太平洋戦争を始める前に、日本を研究し、私が気づかないようなことまで見事に日本人を分析して、戦争に突入してきたのと、最初に読んだときにびっくりした。

今度の要望書も日本を研究し尽くして、あれもやれ、これもやれ、これは外せときめ細かく書かれている。郵政を民営化し、道路公団を解体した。次は、いよいよ国民皆保険の番であると思う。アメリカは「医療の世界に株式会社を入れろ」と繰り返し要望

している。厚生労働省のホームページにまで注文を付けたり、中医協にアメリカのメンバーを加え、意見を入れるようにと執拗に迫ってくる。他には、医薬品や医療器具の関税即時撤廃や医療費を総枠で削り、包括医療を進めようとしている。

経済財政諮問会議の悪行については、今さら触れないが、一つ言いたいのは、私が大臣だったときの経済財政諮問会議の主張は、アメリカの要望を忠実に自分たちの主張として言っていたということを知って置いてもらいたい。だから、TPPは形を変えた年次改革要望書で、民主党政権になり少し変わるかと思ったが、新たな経済財政諮問会議みたいなものができて、同じようなことを言う。この流れが一つも変わらないことを危惧している。

医療界でもTPP参加に賛成する方もいて「医療ツーリズム等で新しい道が開ける」と言うが、これは極めて危険だと思う。今の日本の医療の水準があるから外国から人が来るが、日本の医療が崩壊し医療水準が低下したら、だれも来ないだろう。その時になって「しまった」と言っても、遅い。

経済財政諮問会議は、「とりあえずやってみて、うまくいかなければ、変えれば良い」と言う。彼らは、日本の医療の水準が下がったら、そのときに何か考えれば良いという発想だが、市場や商業の世界なら事後チェックで良いかもしれないが、医療でこれをやったら取り返しがつかない。

## 政界再編

今、国会の中では、民主党も自民党もバラバラだと感じており、液状化しているというのが一番正しい表現だと思う。例えば、消費税の引き上げにしても、同じ党内でも意見がまちまちで全く整理がつかない状態で、大胆に言わせてもらおうと政界再編しかない。その時に、国民負担率をどのぐらいの国にするのかというのを、1本の大きな軸にして再編すべきであろう。大きな政府にするのか小さな政府にするのか。北欧型の国民負担率は70%を超えるが、その代わりに全部国が責任を持ち面倒をみますという国にするのか、アメリカみたいに国民負担率は30%程度、税金が少ないから自己責任で、自分で保険に入り貯金もしておきなさいという国にするのか。

基本のところを何も決めず、曖昧なまま選挙をしている。これが、今、日本が混乱している大きな原因であると思うので、それを1つの軸にして、もう1つぐらいの軸を作って、そして、国民に問えばいいと思う。このことは、民主党や超党派の勉強会の中でも言っており、そうしたものが形になってくるかもしれない。



尾辻副議長は、講演会終了後に開催した医療政策等検討委員会にも同席し、本道の地域医療の現状について議論に参加された。医療に造詣の深い先生のますますのご活躍を期待申し上げます。